

「地域リハビリテーションにおける連携について」

細川隆司

健康の概念

「疾病のない状態」から「単に疾病や虚弱でないというだけでなく、身体的、精神的、社会的に完全に良い状態である」へ変化。

マイナス面の包括概念である「障害」

「機能障害」「能力障害」「社会的不利」 (ICIDH, WHO, 1980)

プラス面の包括概念である「生活機能」

「心身機能・身体構造」「活動」「参加」 (ICF, WHO, 2001)

「機能障害」とは筋力低下、片麻痺など、「活動制限」とはADL低下、家事困難など、「参加制約」とは、たとえば在宅生活継続困難である。

リハビリテーション理念の明確化

『人間らしい豊かな人生に参加するためのチャレンジこそ、リハビリテーションの原点』

(1) リハビリテーションの目的は「生活機能」全般の向上

「リハビリテーションは、患者の生活機能の改善等を目的とする理学療法、作業療法、言語聴覚療法等により構成され、いずれも実用的な日常生活における諸活動の自立性の向上を目的として行われるものである」

(2) リハビリテーションの内容は「諸活動」の向上

日常生活における「諸活動」を、単に訓練時に行えばよいのではなく、実生活のなかで実用的に行うこと、すなわち「している“活動”」の向上を目指すものである。

(3) 利用者・患者の自己決定権の尊重に立つリハビリテーション

単なる精神論ではない、確実な基礎をもつ有効な技術により裏付けられたリハビリテーションを目指すことが重要となる。

☆ リハビリテーションとは生活・人生をよくするもの

…失ったもの（マイナス）から可能性（プラス）への視点の転換…

→失ったもの（マイナス）の回復を目指すのではなく、隠れた可能性（特に「活動」と「参加」）を引き出し、そのプラスを伸ばすという視点と発想の転換である。

地域リハビリテーションについて

地域リハビリテーションの概念整理（平成 9 年度維持期におけるリハビリテーションのあり方に関する検討委員会）

地域リハビリテーションとは、維持期リハビリテーションを包括する概念である。すなわち、医学的リハビリテーションとしての維持期リハビリテーションを含め、現行法の保健・福祉の領域および地域住民やボランティアまで含めた生活に関するあらゆる人々が実践する、地域における総合的リハビリテーションサービスである。

その活動は、障害のある人々が自分の住む地域で暮らす権利、すなわち健康で快適な生活を楽しみ、教育・社会・文化・経済・政治の面において完全に参加する権利を促進するものであり、地域におけるリハビリテーションの発展、障害のあるすべての人々の機会均等や社会的統合を目指した戦略である。

それは、障害のある人々自身、その家族、そして地域住民、さらに保健・医療・教育・職業・社会サービスなどが一体となって努力するなかで履行されていくものである。

地域リハビリテーションの定義（日本リハビリテーション病院・施設協会）

地域リハビリテーションとは、障害を持つ人々や老人が住み慣れたところで、そこに住む人々と共に、一生安全にいきいきとした生活が送れるよう、医療や保健・福祉及び生活に関わるあらゆる人々がリハビリテーションの立場から行う活動のすべてを言う。

その活動は、障害を持つ人々のニーズに対し先見的で、しかも身近で素早く、包括的、継続的そして体系的に対応するものでなければならない。また、活動が実効あるものになるためには、個々の活動母体を組織化する作業がなければならない。

◎元気を失わせる理由

大田は脳卒中など中途障害を受けた人が、退院後だんだん元気がなくなる心理的な原因を次の 7 つに整理分類しています。

- 1 生活感覚の戸惑い
- 2 社会的孤立と孤独感

- 3 可能性がわからない
- 4 目標の変更ないしは喪失
- 5 役割の変化
- 6 獲得された無力感
- 7 障害の悪化や再発の不安

「これだけのことしかできない」ではなく、「この残存機能を使ってあれをしよう」と考えられるようになることが重要です。

「こころが動けば、からだも動く！」

地域リハビリテーションにおける連携の意義

- 1 連携が期待される背景
 - (1) ニーズの多様化と変化
 - 障害をもつ人々が在宅生活を維持していくために解決されねばならない問題・課題は？
 - (2) 在宅生活支援サービスの多様化
 - 在宅生活を支援するサービスの種類は？関わる職種は？
 - (3) サービスチームづくりと連携
 - 所属や職種、立場の異なるものがチームをつくるためには？
- 2 サービスチーム、サービスシステムの意義
 - ◎ ケアチームとして必要な事項とは？

地域リハビリテーションにおける連携の要点

- 1 情報の提供
 - 施設・病院等から在宅へ移行する場合、退院・退所後に自施設で関わりがもてないケースには、どのように対応するか。
- 2 ケース会議やサービス担当者（関係者）会議への参加
 - ケアチームがない場合には、どうする？
- 3 共同作業
 - 地域から求められる活動を可能な限り担う姿勢が信頼を生み、ケア拠点としての役割の確立につながる。
- 4 情報の共有と提供
 - 地域リハビリテーションやケアに関するさまざまな情報を関係者にどのように伝達するかも重要なポイント。
- 5 ネットワークづくりと公的機関・専門職団体

○ネットワークづくりをどこが行なうのか？